

寺田縄の水田をお借りして、好天に恵まれどんど焼きが実施されました。



四方に生竹、しめ縄、紙垂（しで）が廻らされ、お焚き上げに移ります。



日枝神社の宮総代さんが、塩で四方を清めます。



しめ縄、門松、神社のお札、だるまなどお正月の飾りに火が入れられました。



正月飾りに迎えられた、歳神様（としがみさま）をお焚き上げの炎と共に、天上にお見送りします。



お団子を、竹先に付け、アルミホイールでくるみました。
金田公民館には、70名ほどの竹づくりが集まりました。



お焚き上げの炎の照り返しは、身体をのけぞらせます。 熱いです。

『炎、煙にあたると、今年は、かぜにかからず、元気で過ごせる』と、云われます。



激しい炎をもって、歳神様を天上に見送ります。
『来年の正月にはまた、戻ってきてください』の願いを込めて。



『書初めが、高く燃え上がると、習字が上手になる』
『学校での勉強ができるようになる』 ・ ・ 『成績が向上する』かな。



追加される、お焚き上げの飾りが用意されています。





公民館での竹づくりには、金田地区の自治会、子ども会、ママの会、
そして公民館運営委員、公民館職員の方々、多くの方々の活動で
今日の日を迎えています。



『燃えさしを、玄関先に置くと、泥棒除けになる』

『灰を畑にまくと、豊作になる』

歳神様をお見送りすると、沢山のご利益を頂くことができます。



今年のどんど焼きは、終わりです。
歳神様は、寺田縄に住まうに私たちに 『無病息災、五穀豊穰、家内安全』 を
もたらして下さることに違いありません。

私たちは、明るく、仲良く、元気に過ごして行きましょう

(参考) 旧暦の1月15日は、「小正月」と呼ばれ、お正月はこの日までという、正月の終わりを
意味する節目の日だそうです。

各家々で、正月飾りに迎えた歳神様を天上にお見送りする、大切な日でした。
お焚き上げをする場所は、村々の村境にある「道祖神」を祀った所でした。
どんど焼きの習わしは、歴が長く、一説では、平安時代の宮中行事にあるとも説かれています。

大磯の海岸で行われる「左義長」も同じ意味を持つ行事です。長い歴史を持つどんど焼きは、
おこなわれる地方ごとに特徴があり、同じ金田地区であっても、自治会ごとにやり方が異なっ
ています。寺田縄で行われているこのやり方は、寺田縄の歴史的な所産を反映しています。